



晩婚化に伴い急増する高齢出産 「卵子の老化」をテーマに医学講座開催

三月八日、しんしろ助産所の嘱託医である宇津正一氏を講師に迎え、医療関係者や教員、女子生徒を対象に「妊娠適齢期〜卵子老化の観点から〜」をテーマに、新城保健センター集団指導室で医学講座を開きました。

近年、晩婚化・晩産化が加速しています。昭和50年の初産年齢は平均25.7歳であったのに対し、平成23年では30.1歳。更に40歳以上の高齢出産は全体の3.8%を占めます。(厚生省人口動態統計)

講演はこれらのデータを踏まえ、妊娠から誕生までの機序、妊娠を阻害する感染症や疾患、高齢化に伴う妊娠確率の低下や異常妊娠のリスクと多岐にわたりましたが、画像や医学漫画を駆使したユーモアたっぷりの内容にあっという間に時間が過ぎました。「高齢でも欲すれば産むしかない。自然に無治療で健児をたくさん得ることは難しいかもしれないが、高度先進医療の助けを借りて、家族を増やそう。高齢出

産だからと言って特別に危険ではないが、覚悟はいる」さらに「生命の誕生は厳重な選抜、奇跡的な出会い、神秘的な偶然の重なるの産物である。生かされているすべての命に感謝」と講演を締めくくられました。

参加者からは「わかりやすく、ユーモアたっぷりで楽しく聞けた。先生の穏やかで優しい人柄が感じとれ、妊娠の捉え方が変わった(教員)」「いのちを守る仕事ですごくいいと思った。医療系の職業に興味が出た(高校生)」「高年出産になることになっても諦めずに頑張れそう(医療関係者)」「などの感想が聞かれました。



母乳育児の良さが見直されていますがなかなか母乳栄養率が上がらないのが現状です。妊娠すると、ほとんどの方が「母乳で育てたい」と願っているにもかかわらず、新城地区の1ヵ月児の母乳栄養率(表1)平成24年度健康診査マニュアル報告)は、ここ何年も40%代で推移しています。

(表1) 1ヶ月児の母乳栄養

	H19	H20	H21	H22	H23	H24
新城	42.3	41.8	46.0	40.7	39.8	41.8
設楽	46.2	45.5	37.9	50.0	16.7	59.3
東栄	78.9	60.0	75.0	55.6	54.5	60.0
豊根	75.0	0.0	66.7	33.3	0.0	50.0

この数字から、母乳で育てることを「難しい」と感じているお母さんが多いことが伺われます。その原因は何でしょうか。

母乳育児を応援しています

2週間健診の効果

そのために、まだ赤ちゃんとの生活リズムに慣れないうちに退院されるお母さんが増えています。退院後、「おっぱいが張って痛い」「赤ちゃんがぐっぐぐ飲んでくれない」「おっぱいが足りていないか心配」といった不安や戸惑いから母乳育児を難しいと感じたり、諦めてしまうのでしょうか。

自尊感情を育む『いのちの授業』

11月と2月の2回、T中学とS高校に出向いて「いのちの授業」を行いました。どちらの学校も助産所を開設した時からのつながりです。いじめや自殺等、命を疎かにするニュースが後を絶たない中で、出産に立ち会う助産師として、こども達に生まれてきた時の両親や家族の喜び、大切に育てられて今があることを伝えたくて、この活動をはじめました。

しんしろ助産所で出産された方々のご理解のもと、誕生場面を多用したパワーポイントを見てもらえたこともあり、授業はあっという間。画像を通して、赤ちゃん誕生を喜び溢れんばかりの家族の表情や、大切に抱かれている赤ちゃんの様子、無事に出産を終えた母親の安堵の気持ち等が伝わったようです。併せて妊婦体験ジャケットの着用や赤ちゃん人形の抱っこ体験も行いました。生徒が始めは照れながらもワイワイと楽しそうに体験する姿が印象的でした。

授業後の感想文には「親に感謝したい」「生まれてきたこと自体がすごい」「いのちの大切さがわかった」「自分が生まれてきた日の事をききたくなった」...等があり、自分を大切に思うことへのスタートができました。

こうした不安や心配を解消するために最近2週間健診を行う施設が増えています。健診では、赤ちゃんの体重の増え方をチェックしたり、母乳量を測ったり、助産師が相談にのるので、お母さん一人でも悩まず育児に自信が持てるようになります。

しんしろ助産所でも出産施設や初産産に関係なく2週間健診がつけられます。体重増加も順調で、母乳がよく出ていることが分かり安心してきたという方や、反対に、よく飲んでいますが授乳方法を変えた方、必要以上のミルク補足に対して早めに対応できた方もいます。不安を解消し、安心して子育てができるよう2週間健診を活用しましょう。

<胎児心拍数モニタリングとは?>

母体腹部に陣痛計と児心音計を装着し、胎児の状態を評価する検査です。胎児の心拍数そのもの状態と胎動や母体の子宮収縮に対して胎児心拍がどのように変化するかを併せてチェックし、総合的に胎児の状態を評価します。

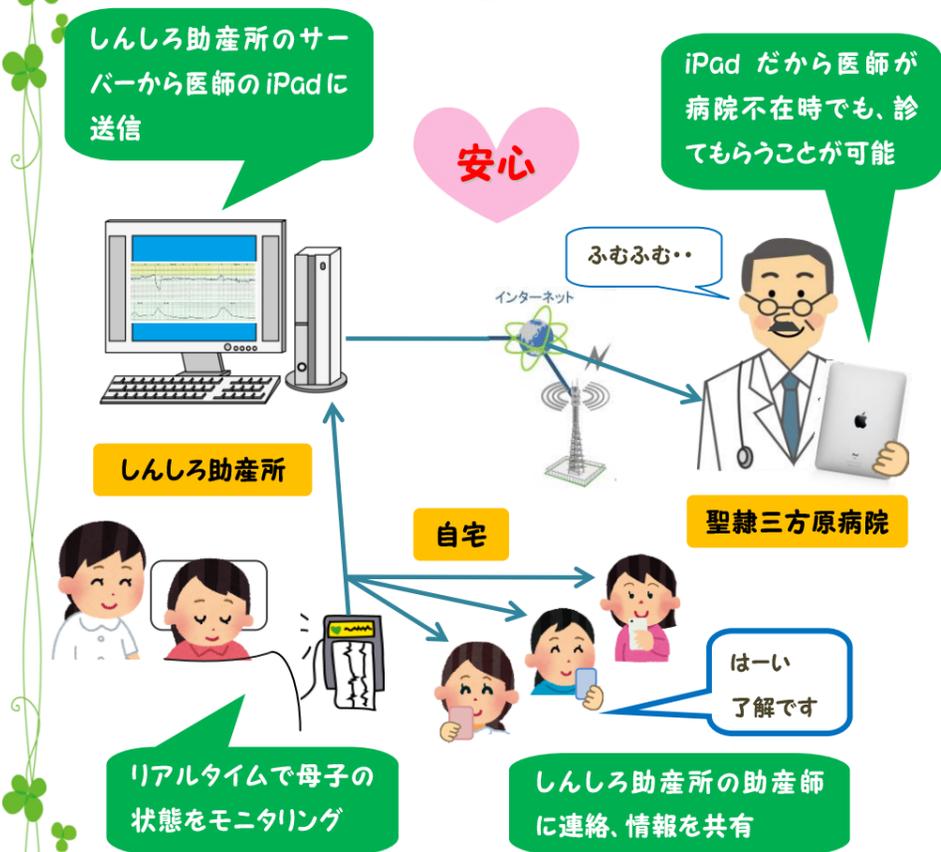
<遠隔送信システムとは?>

しんしろ助産所で行っている胎児心拍モニタリングを、聖隷三方原病院にいたる嘱託医も同時に診ることができ、前に送った情報もさかのぼって検索できるシステムです。病院到着前から、リアルタイムの母児の状況をチームで共有します。

システムが入って

お腹が張ると来所された方や、分娩時の状況報告に胎児心拍陣痛図を併せて報告でき、情報のみ見える化の効果を実感しています。聖隷三方原病院の宇津医師も「いつでも送ってくれ」と支持して下さっています。

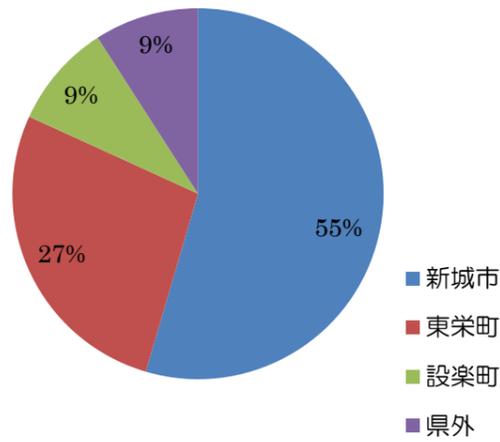
胎児心拍遠隔送信システムを導入し、更に安全で安心なお産へ!



しんしろ助産所 2013年度イベントまとめ

- 4月** みんなで子育て・孫育て教室（助産所）
- 5月** 母乳相談（東栄町）
- 6月** ママとパパの教室（新城保健センター）
ベビーマッサージ（豊根）
助産所開放日
- 7月** おっぱい教室 ①②（助産所）
助産師の仕事・講演（新城中学校）
- 9月** 親子教室（東栄町）
ママとパパの教室（新城保健センター）
ベビーサイン勉強会（助産所）
- 10月** ベビーサイン勉強会（助産所）
健康まつり（新城保健センター）
- 11月** ベビーマッサージ（東栄町）
いのちの授業（豊根）
マタニティヨーガ体験（助産所）
- 12月** ベビーマッサージ（豊根）
ママとパパの教室（新城保健センター）
マタニティヨーガ体験（助産所）
- 1月** 産科マネジメントの基本・講演（日本看護協会）
- 2月** ベビーサイン勉強会（助産所）
産科マネジメントの基本・講演（日本看護協会）
オープンシステムの実践・講演（静岡看護協会）
いのちの授業（新城高校）
- 3月** みんなで子育て・孫育て教室（助産所）
母乳相談（東栄町）
ママとパパの教室（新城保健センター）
医学講座（新城保健センター）

分娩利用者地域別内訳



平成25年度の分娩予約数は、13件あり、そのうち胎児機能不全・早産により2件が病院管理となり、分娩数は11件でした。分娩利用の半数以上が新城市の利用者で、次に多いのが東栄町でした。里帰りの利用者は今年度は1件に留まり、全体の9割が北部医療圏の利用者でした。

項目	利用者延べ件数
妊婦健診	99件
乳房ケア	70件
沐浴	0件
産褥入院（通所）	2件
産褥入院（入所）	26件
ベビーマッサージ指導	37件
産褥・新生児訪問	4件
胎児心拍モニタリング	16件

助産所の利用者数は年々増えていますが、妊婦健診は分娩数が減ったため減少しました。
今年度は、分娩利用者のほとんどが聖隷三方原病院を早期退院し、助産所の産後療養に移行されたことが利用件数増加につながりました。乳房ケアやベビーマッサージは利用者層への周知が広がり、増加につながりました。

平成25年度来所者数

見学等	232組
測定	437組
計	669組

（母子合わせて1組とする）



助産所の見学等の来所者や、乳幼児の身長・体重測定、哺乳量測定等の来所者も増加しています。他院出産後の2週間チェックなど、里帰りの方が利用するケースもみられるようになってきました。こうしたことから、助産所が地域に定着してきたことが伺えます。
また、ブログ「しんしろ助産所だより」や「ことも園メール」「しんしろ助産所新聞」を通して、助産所を知っていただけるよう、情報を発信することができました。

アンケート結果

平成25年度オープンシステム利用者11人対象
（回収率82%）

＜しんしろ助産所を選んだ理由（複数回答）＞

家から近くて通うのに便利	5
友人・知人に勧められて	2
スタッフの評判が良かった	3
施設がきれい	0
家庭的なお産をしたかった	6
聖隷がバックにあり、安心	5
出産施設が他になかった	0
里帰り出産をしたかった	2
待ち時間が少ないと聞いた	1
食事がおいしいと聞いた	0
なんとなく	0
その他	2

＜助産師の対応で良かったこと・良くなかったこと（それぞれ3つまで）＞

	良かった	良くなかった
助産所での診察	7	0
説明・指導	2	0
子ども連れ受診	2	0
分娩時の助産所対応	1	0
たんぼぼへの移動	1	0
分娩時のケア	7	0
分娩時の家族対応	2	0
産後保健指導	1	0
母乳に関すること	3	0

＜しんしろ助産所を利用して、安全・安心・満足の評価＞

	良かった	まあまあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった
安心	9	0	0	0	0
安全	9	0	0	0	0
満足	9	0	0	0	0

